

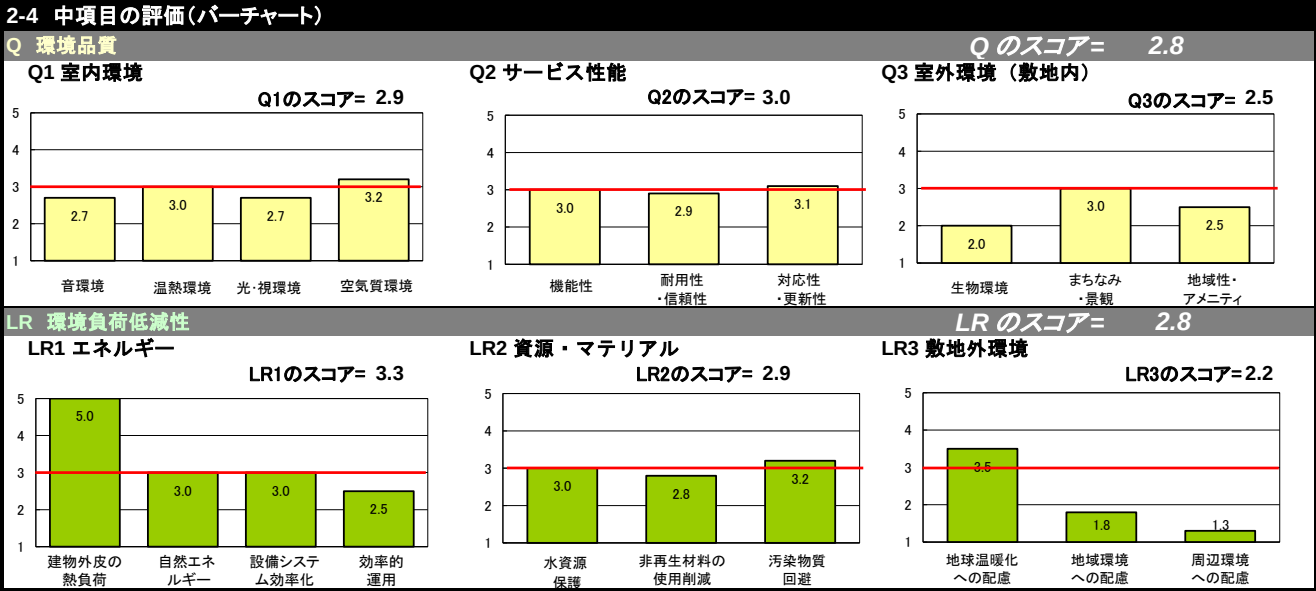
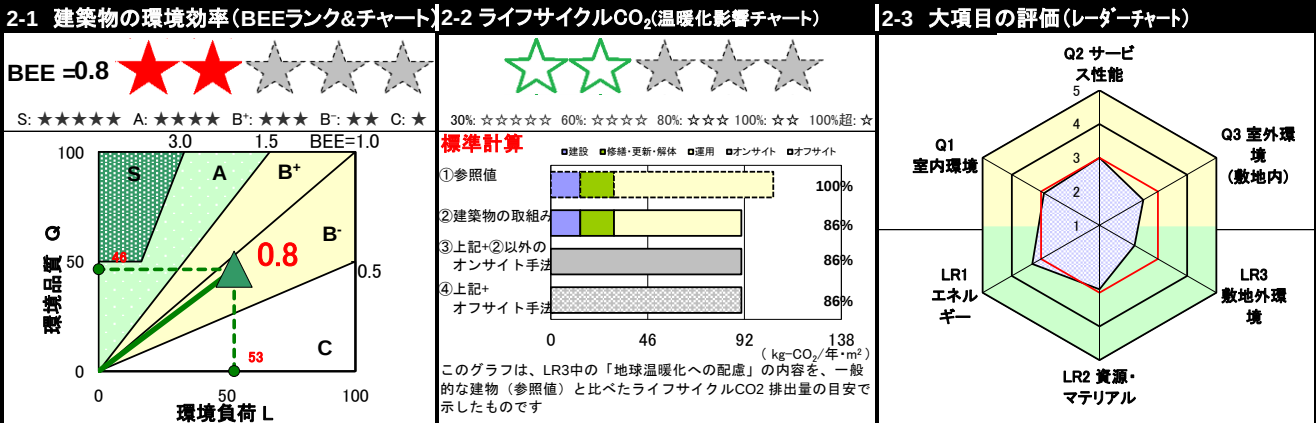


評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2014年版、名古屋大学環境工学部環境工学研究室) ■使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

| 1-1 建物概要 |                                    | 1-2 外観 |                 |
|----------|------------------------------------|--------|-----------------|
| 建物名称     | 新日グループ新社屋等                         | 階数     | 地上5F            |
| 建設地      | 名古屋市中区山王一丁目801番1、802番1、818番1、818番2 | 構造     | S造              |
| 用途地域     | 準工業地域、準防火地域                        | 平均居住人員 | 125 人           |
| 地域区分     | 6地域                                | 年間使用時間 | 2,000 時間/年(想定値) |
| 建物用途     | 事務所                                | 評価の段階  | 実施設計段階評価        |
| 竣工年      | 2025年7月 予定                         | 評価の実施日 | 2024年8月23日      |
| 敷地面積     | 797 m <sup>2</sup>                 | 作成者    |                 |
| 建築面積     | 564 m <sup>2</sup>                 | 確認日    | 2024年8月23日      |
| 延床面積     | 2,694 m <sup>2</sup>               | 確認者    |                 |

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください



| 3 設計上の配慮事項 |              |              |
|------------|--------------|--------------|
| 総合         | その他          |              |
| Q1 室内環境    | Q2 サービス性能    | Q3 室外環境(敷地内) |
| LR1 エネルギー  | LR2 資源・マテリアル | LR3 敷地外環境    |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

## 重点項目スコア・結果シート

新日グループ新社屋等

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

| 重点項目     |                 | 評価  | 全体に対する<br>重み係数 | 重点項目<br>スコア |
|----------|-----------------|-----|----------------|-------------|
| 1. 温暖化対策 |                 |     |                | 3.1         |
| LR1      | エネルギー           | 3.3 | 0.4            |             |
| LR3.1    | 地球温暖化への配慮       | 3.5 | 0.1            |             |
| LR3.2.2  | 温熱環境悪化の改善       | 1.0 | 0.05           |             |
| 2. 自然共生  |                 |     |                | 1.9         |
| Q3.1     | 生物環境の保全と創出      | 2.0 | 0.09           |             |
| Q3.3.1   | 地域性への配慮、快適性の向上  | 無   | 0.009          |             |
| Q3.2     | まちなみ・景観への配慮     |     |                |             |
| Q3.3.2   | 敷地内温熱環境の向上      | 2.0 | 0.045          |             |
| 3. 循環型社会 |                 |     |                | 2.9         |
| LR2.1    | 水資源保護           | 3.0 | 0.06           |             |
| LR2.2    | 非再生性資源の使用量削減    | 2.9 | 0.18           |             |
| LR3.2.3  | 地域インフラへの負荷抑制 ※2 | 2.3 | 0.01875        |             |

## 結果

## 1. 温暖化対策

評価点 = 3.1



## 2. 自然共生

評価点 = 1.9



## 3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。